筆者

小川洋子

昭和三十七（一九六二）年〜。小説家。岡山県の生まれ。旧姓は本郷洋子。高校卒業まで岡山市で暮らす。昭和五十五年、早稲田大学第一文学部入学、サークル「現代文学会」に所属。五十九年文芸科卒業、帰省して倉敷市内の川崎医大秘書室に勤務。六十一年結婚、小川姓となり、倉敷市で専業主婦をしながら小説を執筆。六十三年「揚羽蝶が壊れる時」で海燕新人文学賞受賞。翌平成元年、長男誕生。二年、前年から三期連続して芥川賞候補となり、四度目の「妊娠カレンダー」で芥川賞受賞。その後旺盛な創作活動を展開、「密やかな結晶」「薬指の標本」を経て、十六年、「博士の愛した数式」で読売文学賞、本屋大賞、日本数学会出版賞、「ブラフマンの埋葬」で泉鏡花文学賞、十八年、「ミーナの行進」で谷崎潤一郎賞、二十五年、「ことり」で芸術選奨文部科学大臣賞、令和二年、「小箱」で野間文芸賞を受賞。海外でも翻訳が多く、国際的に活躍している。これまでの業績は、田畑書店編集部編『小川洋子のつくり方』（令和三、田畑書店）に詳しい。

出典

令和四年度から使用が開始される明治書院教科書の編集委員を務める筆者が、本書のために書き下ろした文章である。